



UENO MEMORIAL ART MUSEUM

植野記念美術館 開館20周年

# 芸術文化の歴史を紡ぐ

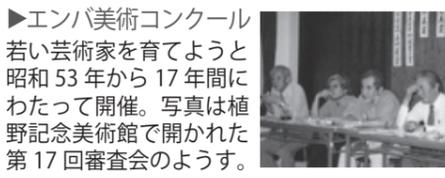


植野記念美術館開館20周年記念式典  
20年の軌跡、そして未来へ。

3月7日、植野記念美術館で、開館20周年記念式典が開かれ、美術館の運営に携わる関係者などが集まり、美術館の歩みを振り返りました。また、記念コンサートでは、丹波市出身のソプラノ歌手足立さつきさんが美しい声を響かせ、式典に花を添えました。



式典では、故植野藤次郎氏と親交があった木村重信氏(美術評論家・大阪大学名誉教授)が、「植野藤次郎さんの業績とエンバ美術コンクール」と題して講演。植野氏にまつわるエピソードやエンバ美術コンクールの歴代受賞作品についてわかりやすく紹介しました。



▶エンバ美術コンクール  
若い芸術家を育てようと昭和53年から17年間にわたって開催。写真は植野記念美術館で開かれた第17回審査会のようす。

## 開館20周年のメモリアル

平成6年11月、「毛皮のエンバ」で知られるエンバグール・プ創業者 故植野藤次郎氏(氷上町出身)の愛郷の思いから氷上町(当時)に寄贈され開館した植野記念美術館。開館以来、芸術文化振興の拠点として歩んできたこの美術館は、今年、開館20周年の節目を迎えました。  
「建物自体も美術品でなければならぬ」という植野氏の考えから、建築様式は古代ギリシャ神殿イオニア式をベースに一部ルネッサンス様式を採り入れ、外装には中国福建省から取り寄せた花崗岩を使用。圧倒的な存在感を放つ荘厳な建造物でありながら、地域の景観にしっかりと調和しています。

## ダイジェスト版 美術館20年の歩み

平成6年11月  
【植野記念美術館竣工式】



植野藤次郎氏が理事長を務めた財団法人植野アジア芸術文化振興財団から建物の寄贈を受け、氷上町立植野記念美術館として開館。

平成7年9月  
【植野記念美術館友の会発足】

美術を愛する市民の集いとして発足。展示会での館内整理など、さまざまなボランティア活動を行っている。なお、市発足後は全市に会員を広げ活動している。

清掃ボランティア活動も20周年



草刈りや刈込みなど、美術館周辺を整備する友の会のみなさん。開館以来20年続くボランティア活動。

## 植野記念美術館収蔵品



↑中国陶板画

中国絵画、中国景德鎮の磁器、パプア・ニューギニアの民芸品、エンバ美術コンクール買上作品を中心に収蔵。開館にあたっては、植野氏が愛好した中国画、陶磁器など多くの作品が寄贈されました。



↑パプア・ニューギニア民族美術品

## 「エンバ美術コンクールの軌跡」



美術館開館20周年を記念して、植野コレクションⅢ「エンバ美術コンクールの軌跡」を開催中。歴代受賞作家の今を紹介するとともに、コンクールの軌跡と業績を振り返る展覧会です。

●会期：4月5日(日)まで

## 芸術文化の種を次代に紡ぐ

植野記念美術館では、これまでに100回を超える展覧会を開催。「美術館を郷土文化発信の地に」という植野氏の願いを受け継ぐべく、市民が身近に芸術文化にふれられる場所、市内美術作家の作品発信の地としての役割を担ってきました。植野氏と親交があった、兵庫県立美術館館長を務めた美術評論家 木村重信さんは、「植野さんがまいた芸術の種を育て、大きな花を咲かせてほしい」と話します。  
植野記念美術館が、今後も市民生活を豊かにし、地域の芸術文化を掘り起し醸成する拠点としてあり続けることで、植野氏の意志を次代に紡いでいくことが期待されています。

平成24年4月  
【入館者30万人を達成】



平成26年～  
【開館20周年特別展・企画展を開催】

開館20周年を迎えた今年、これまでの歩みを振り返る植野藤次郎氏寄贈のコレクション展や丹波市ゆかりの美術作家たち展など多彩な催しを開催。

平成15年7月  
【入館者10万人を達成】



平成22年10月  
【八代画紀トークショー・サイン会】



八代さんのほか、これまでに片岡鶴太郎さんやジュディ・オングさんも当美術館で展覧会を開き、丹波市を訪れた。

## 展覧会入館者数ベスト3を発表

第1位 24,421人



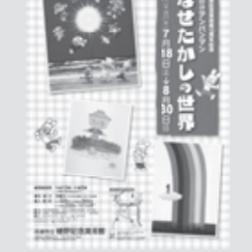
●山下清展  
(平成19年4月21日～5月27日)  
時代を歩いた放浪画家 山下清氏の風景画を展示。純粋で素朴、ぬくもりが感じられる清氏の作品に多くの人が魅了されました。

第2位 13,935人



●水木しげる展  
(平成22年7月31日～10月3日)  
水木しげる氏の「妖怪道五十三次」を展示。妖怪たちが東海道を旅する姿を描いた作品が話題に。

第3位 12,953人



●アンパンマンの世界展  
(平成21年7月18日～8月30日)  
世代を超えて愛される国民的ヒーロー「アンパンマン」の作品を展示。たくさんの子もたちでにぎわいました。



植野記念美術館 館長 山口 洋子

これからも芸術文化発信の拠点として、魅力的な展覧会を催すなど、さらに愛される美術館をめざして歩み続けます。